

2021年度 第1四半期決算

イオン株式会社

2021年7月7日

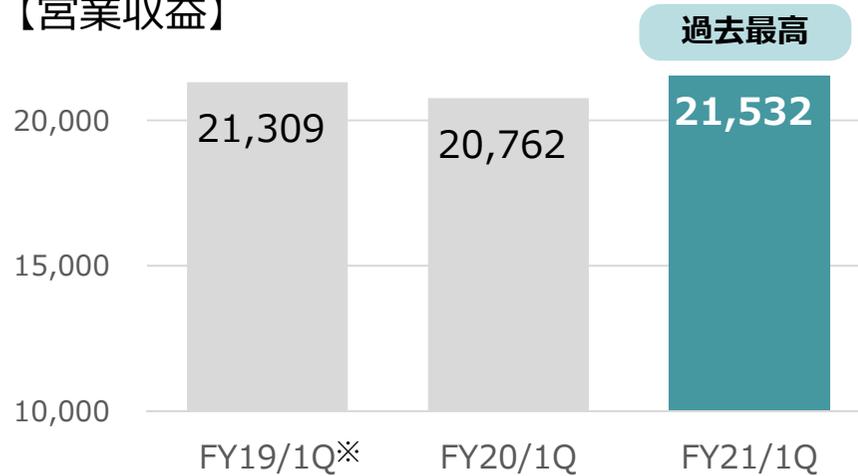
- ・前年にコロナ影響を大きく受けた事業が回復
- ・**営業収益、経常利益は過去最高を更新。営業利益も過去最高に次ぐ水準へ回復**
- ・**四半期純利益は589億円の大幅増益で第1四半期としては3期ぶりの黒字へ転換**

(億円)

	当期実績	前期比・差
営業収益	21,532	+3.7%
営業利益	391	+517
経常利益	403	+564
親会社株主に帰属する 四半期純利益	50	+589

・緊急事態宣言により一部施設で営業休止・時間短縮を実施する中、利益水準はほぼコロナ前水準へ。宣言解除、ワクチン接種拡大等の外部環境改善が今後の後押しへ

【営業収益】

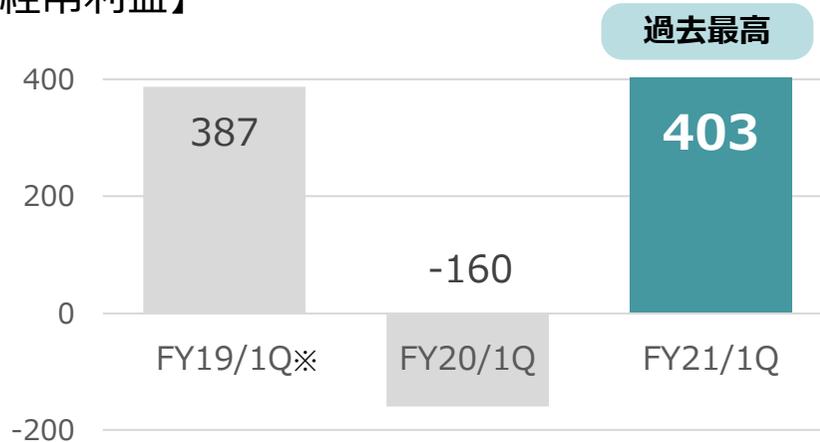


【営業利益】

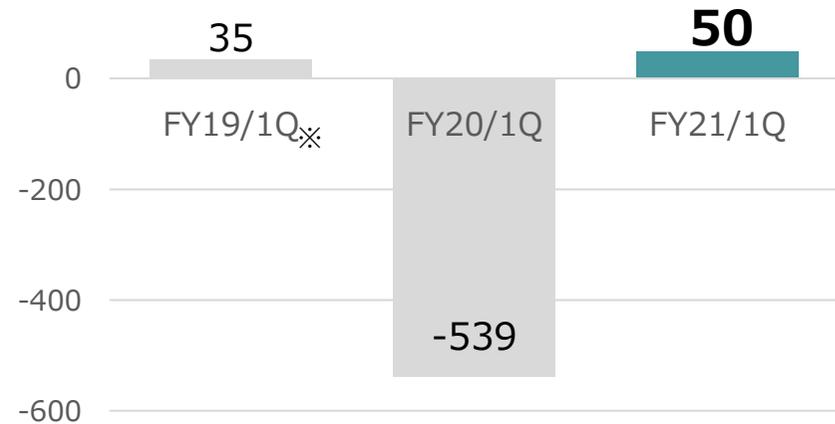
(億円)



【経常利益】



【四半期純利益】



連結業績（セグメント別）



- ・前年度にコロナ影響を受けたGMS、総合金融、サービス・専門店、ディベロッパー、国際の5事業が増益
- ・前年度に強い食品需要があったSMは反動減も、2019年度対比では増益

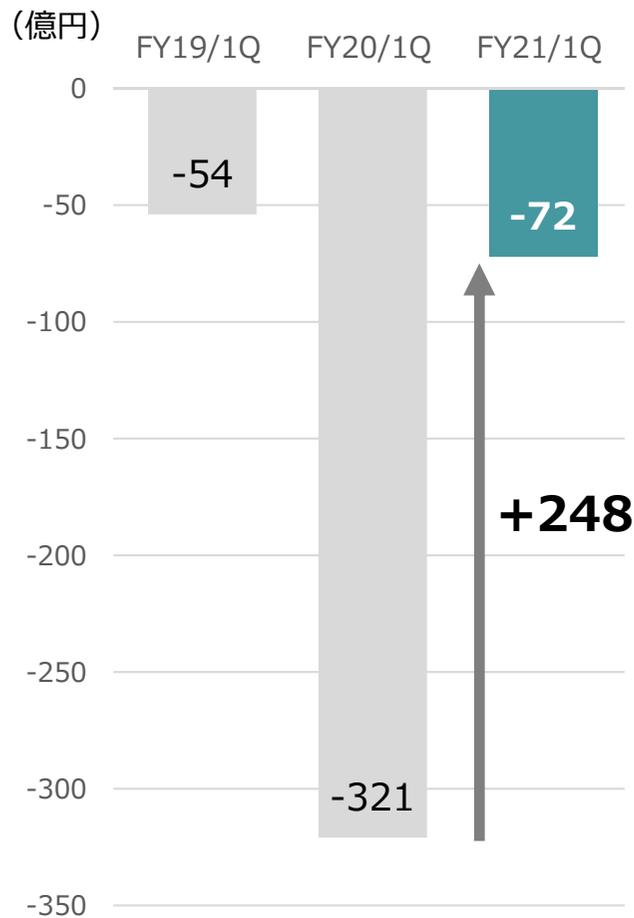
【セグメント別業績】

(億円)

	営業収益	前期比(%)	営業利益	前期差
連結合計	21,532	+3.7	391	+517
GMS	7,564	+7.1	-72	+256
総合金融	1,232	+12.0	220	+227
サービス・専門店	1,703	+27.9	-11	+107
ディベロッパー	885	+39.7	108	+79
国際	1,101	-7.4	21	+7
DS	976	-6.4	4	-11
ヘルス&ウェルネス	2,501	+6.7	70	-29
SM	6,794	-10.0	52	-113

- ・売上、売上総利益率、テナント収入の回復が寄与し大幅な損益改善
- ・緊急事態宣言の解除により更なる改善へ

【セグメント利益※】



【イオンリテール 営業利益増加要因】

(億円)



【イオンリテール：売上既存比（部門別）】 (%)

部門	前期比	前々期比
食品	+2.0	+4.2
衣料	+26.1	-19.8
住居余暇・H&BC	+1.8	-11.4

・デジタル技術の活用により、ニューノーマルへの対応、構造改革を推進

ニューノーマル対応	レジゴ-導入店舗数*	37店舗	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の店舗貸出端末に加え、アプリのインストールでお客さまご自身のスマートフォンでも利用が可能に
	ネットスーパー売上前期比**	+16%	<ul style="list-style-type: none"> ・午前便の拡充、作業効率改善等による受注枠拡大 ・地域特産品等、普段取扱いのない商品を拡充
構造改革の推進	カンパニー経費 前々期差***	-70億円	<ul style="list-style-type: none"> ・人件費、設備費等の固定費を業務効率化や単価ダウン等で削減 ・本社経費も約1割減。業務効率化を進め70名のスタッフ再配置を実施
	在庫高既存比	-7.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・仕入コントロールと不振在庫カットを継続して推進 ・在庫回転日数は9.6日減
	食品売変率 前期差	-0.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・「AIカカク」導入推進。デリカ売変率2割減（導入店平均） ・7月中に全店導入の計画

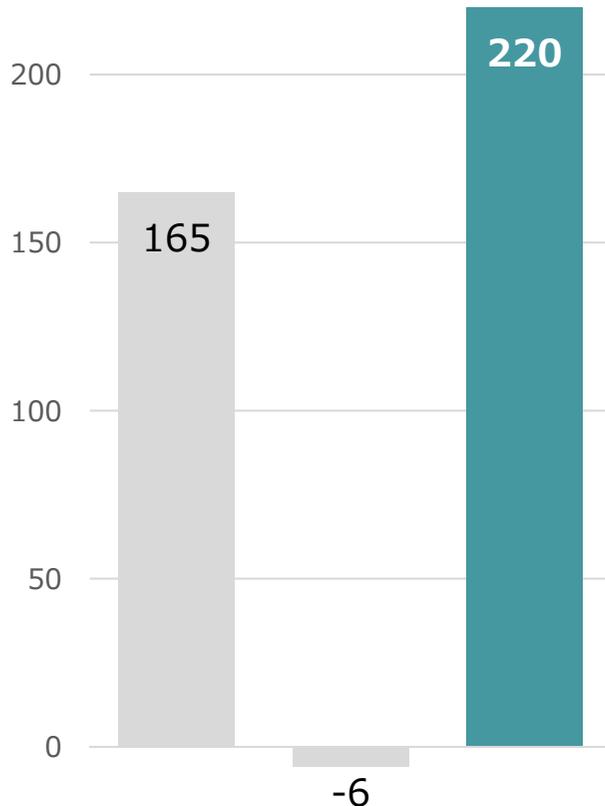
※イオンリテールとイオンリテールストアの合算

***東北事業本部を除く既存店対比

- ・カードショッピングはポイントキャンペーン等の需要喚起策、住宅ローンは提携先への営業やWeb相談・申込の強化等により、前年、前々年を上回る取扱い高の伸長
- ・貸倒関連費用は、継続的に審査・回収を強化し大きく低減

【セグメント利益】

(億円) FY19/1Q FY20/1Q FY21/1Q



【イオンフィナンシャルサービス：取扱高前期比】

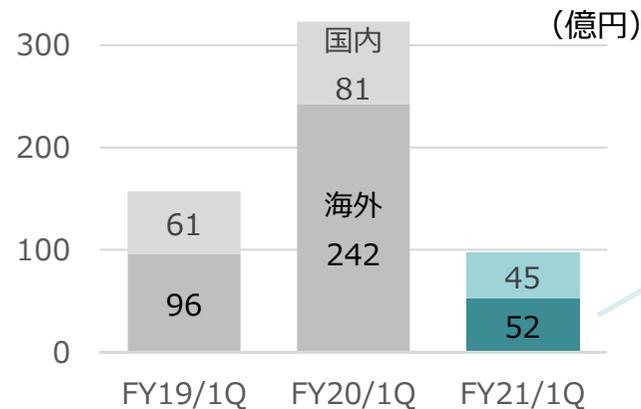
	国内	海外
カードショッピング	+10%	+2%
住宅ローン	+11%	-
パーソナルローン	-	+22%
個品割賦	-10%	+38%
カードキャッシング	-11%	-17%

- ・ポイントキャンペーンによる需要喚起
- ・Web限定カード入会・利用促進

- ・提携ハウスメーカーへの営業強化
- ・Web、店頭両面での相談・申込

- ・メーカー新モデル発売に連動したバイクローン金利優遇キャンペーン

【イオンフィナンシャルサービス：貸倒関連費用※】



審査の精緻化と債権回収への注力 (マレーシア)

- ・居住地域や勤務先、収入等の区分毎にコロナ影響をAIで分析し審査に活用

- ・債権回収人員の優先配置による回収体制の整備 (タイ)

- ・顧客の過去の返済履歴を分析し、効率的な回収体制を構築

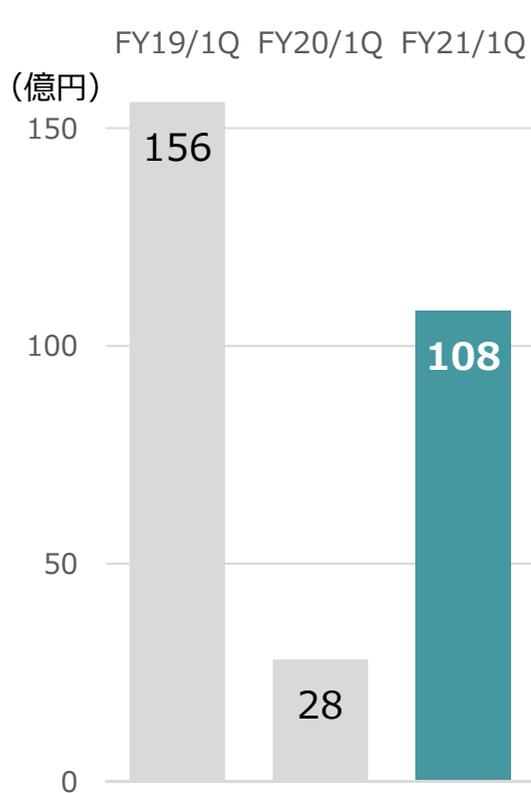
※貸倒引当金繰入額と貸倒損失の合計額

ディベロッパー事業、サービス・専門店事業

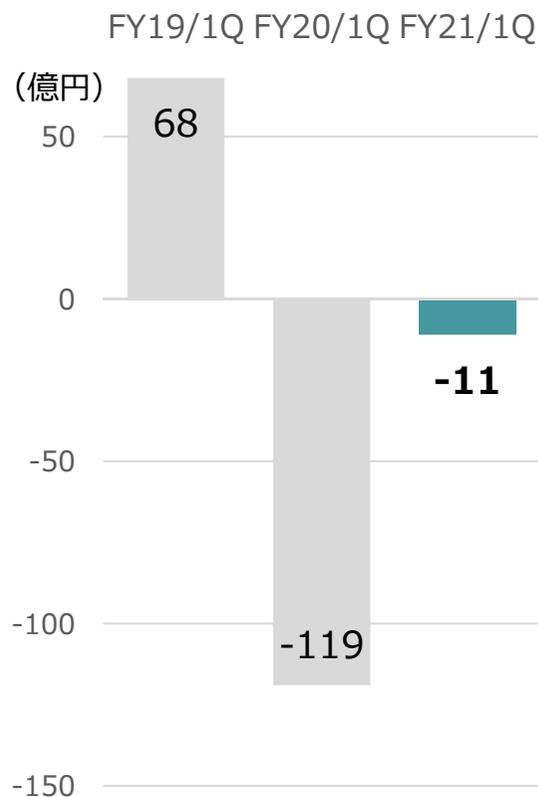


- ・お客さまに安心してご利用していただくための環境改善を推進し大幅損益改善
- ・緊急事態宣言による休業・時短営業影響を除けば、概ね想定通りの進捗

【ディベロッパー事業
セグメント利益】



【サービス・専門店事業
セグメント利益※】



安全・安心な環境の提供

- ・CO₂濃度の測定、表示
- ・十分な間隔の確保

逸失営業時間

約16万時間



- ・感染が概ね収束状態にある中国では、コロナ前対比で専門店売上が二桁増
- ・中国新規モールにてデジタル技術を積極導入。今後水平展開へ

【イオンモール：地域別利益】 (億円)

	FY21/1Q	前期差	前々期差
日本	80	+53	-48
中国	22	+33	+7
アセアン	4	-2	-2

中国既存モール専門店売上
前々期比
+11.5

イオンモール広州新塘（5月新店）

- ・360度取り囲むLEDビジョン



- ・CRM：WeChatを利用した会員システム（初導入）



- ・AIインフォメーション（初導入）

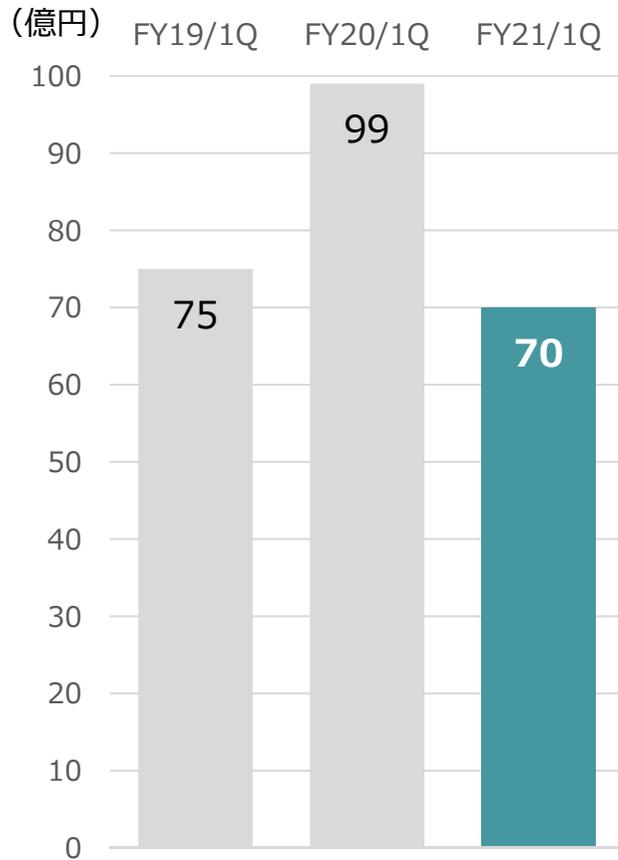


ヘルス&ウェルネス事業

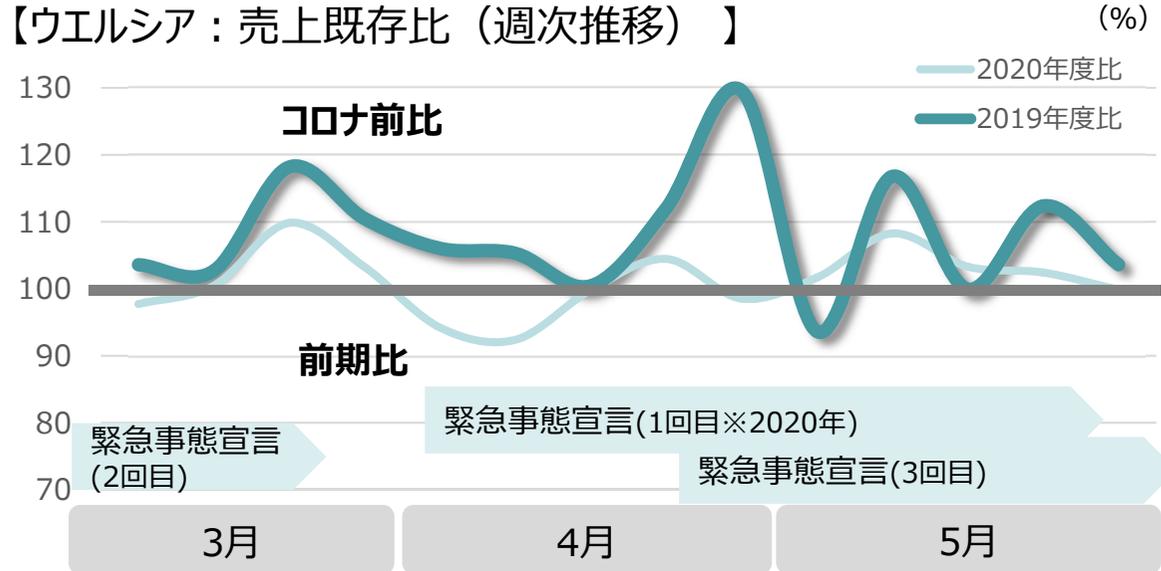


- ・着実にコロナ前の売上水準を上回る
- ・調剤部門が、調剤併設率が高い強みを発揮し売上を牽引
- ・出店・調剤併設を積極的に推進し、今後の更なる成長・収益力強化へ

【セグメント利益】



【ウエルシア：売上既存比（週次推移）】



【ウエルシア：調剤部門の状況（国内・1Q末）】

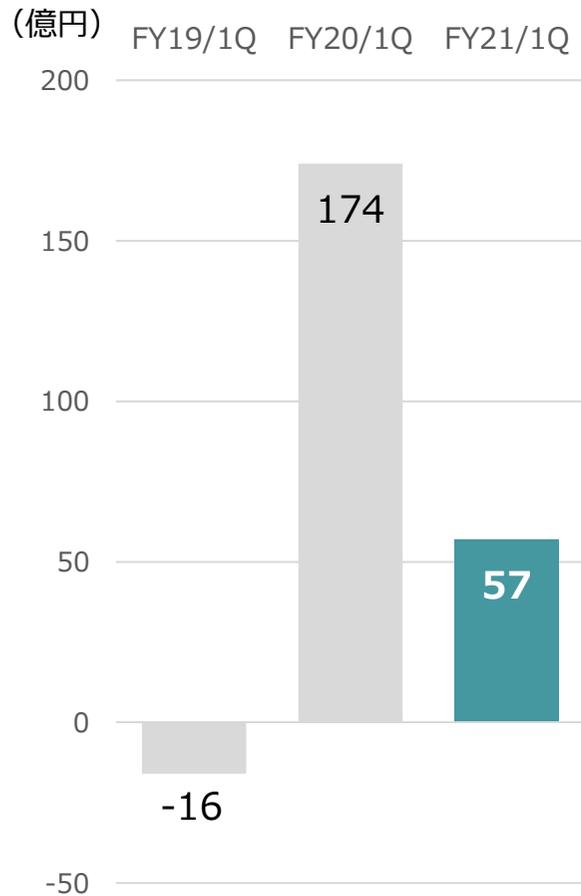
<p>調剤売上前期比</p> <p>+16.7%</p>	<p>調剤併設店舗数</p> <p>1,684店舗</p> <p>1Q増加数 +46店舗 計画差 +5店舗</p>	<p>調剤併設率</p> <p>76.3%</p> <p>(前期末差 +0.7)</p>
-------------------------------------	--	---

SM事業、DS事業



- ・生鮮・デリカの強化により売上が伸長した結果、2019年度対比で増益
- ・サステナブルな利益成長を目指し、事業再編による経営効率の改善に取り組む

【セグメント利益※】



【SM11社：生鮮・デリカ売上の状況】

(%)

既存店売上

	前期比	前々期比
畜産	-7.9	+6.3
農産	-7.1	+5.6
水産	-0.4	+6.0
デリカ	+6.4	+3.3
生鮮・デリカ	-2.8	+5.2

食品内売上構成比

	1Q実績	前期差
畜産	10.0	-0.3
農産	13.5	-0.4
水産	7.6	+0.3
デリカ	11.9	+1.3
生鮮・デリカ	43.0	+0.9

【事業再編の推進】

- SM: マックスバリュ西日本が子会社のマルナカ、山陽マルナカと合併（3月）
- DS: ビッグ・エーとアコレが経営統合（3月）
- DS: イオンビッグとマックスバリュ長野が合併（6月）

※2019年度実績からマックスバリュ北海道、マックスバリュ九州、2020年度実績からマックスバリュ九州を除外

デジタルシフトの
加速と進化

店舗のデジタル化により、便利で魅力的な買物体験が出来る空間へ



U.S.M.H :
マルエツ・カスミ全店に“Scan & GO”導入



イオンリテール :
AIによる接客・売場改善サポート

サプライチェーン
発想での
独自価値の創造

生鮮食品の品揃え・商品開発力を高め、収益力向上につなげる



イオン北海道 :
石狩プロセスセンター (8月開設)



マックスバリュ西日本 :
岡山総合プロセスセンター(来期開設)

新たな時代に対応したヘルス & ウェルネスの進化

各事業に“健康”の要素を組合せ、新たな商品・サービスを展開

<ニューノーマルへの対応>

- 非接触、非対面で受け取りたい
- 薬局営業時間内に受け取ることができない



ウエルシア薬局：
調剤お薬受取り専用ロッカー



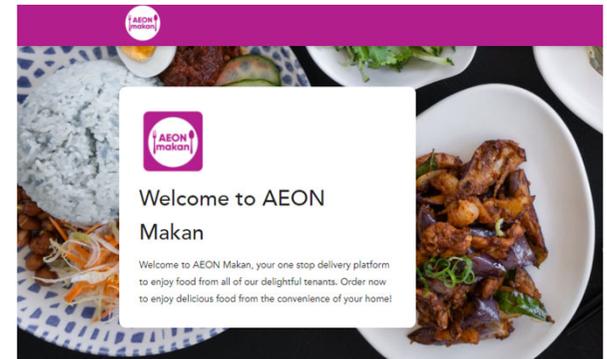
イオントップバリュ：
疲労回復ウェア「セルリアント」強化

アジアシフトの更なる加速

リアルとデジタル両輪で事業展開を加速



中国：
イオンモール広州新塘オープン



アセアン (イオンマレーシア)：
オンラインフードデリバリー開始

- ・イオンカードの「ときめきポイント」を「WAON POINT」に変更（9月～）
- ・お客さまの利便性を高めることでグループ中期経営計画で掲げた「イオン生活圏」の魅力を強化し、グループ全体の売上・利益成長につなげていく
- ・下期以降、WAON POINTを主軸に販促を積極展開、ポイントがさらに貯まりやすい・使いやすい環境を創り、「お客さまの利便性向上」→「グループの収益力アップ」というサイクルを加速させる



【お客さまの利便性向上】

分かりやすい・貯めやすい

- ・クレジットでも電子マネーでも現金でも、イオンでのお買い物ではWAON POINTが貯まる
- ・クレジットなら、
 - イオン以外の買物でも、公共料金や携帯電話料金の自動引き落としでも、WAON POINTが貯まる
 - ポイント10倍デーなど魅力的な企画が豊富

使いやすい

- ・1ポイントから使える（ときめきポイントは1,000ポイントから）
- ・毎日のお買い物でレジでポイント利用できる（ときめきポイントは事前の交換手続きが必要）

【イオンの収益力アップ】

- ・ポイントが貯まりやすくなること、1ポイントからお店で使えるようになることが、お客さまの再来店・ご購入金額増のモチベーションとなり売上増へ
- ・今まで使えなかった1,000ポイント未満のポイントが売上に
- ・WAON POINTに統一した、分かりやすい販促が可能に
- ・ポイントの魅力向上で、イオンカードの新規入会者数や既存のお客さまの利用額が増加
＝キャッシュレス決済の推進加速

業績予想



・期初公表値から変更なし

【2021年度 業績予想】

(億円)

	2019年度	2020年度	2021年度 (予想)	前期比・差
営業収益	86,042	86,039	86,200	+0.2%
営業利益	2,155	1,505	2,000~2,200	+494~+694
経常利益	2,058	1,388	1,900~2,100	+511~+711
親会社株主に帰属 する当期純利益	268	-710	200~300	+910~1,010

地域に安心、平和な日常生活を取り戻すために



・新型コロナウイルス感染症の早期終息を目指して

自治体にワクチン接種会場を提供

提供会場数 30カ所

接種済み 3万人

職域接種の実施

参加グループ社数 40社

接種見込み※ 15.6万人

アセアン各国政府**にワクチン接種支援金 総額3.5億円を寄付

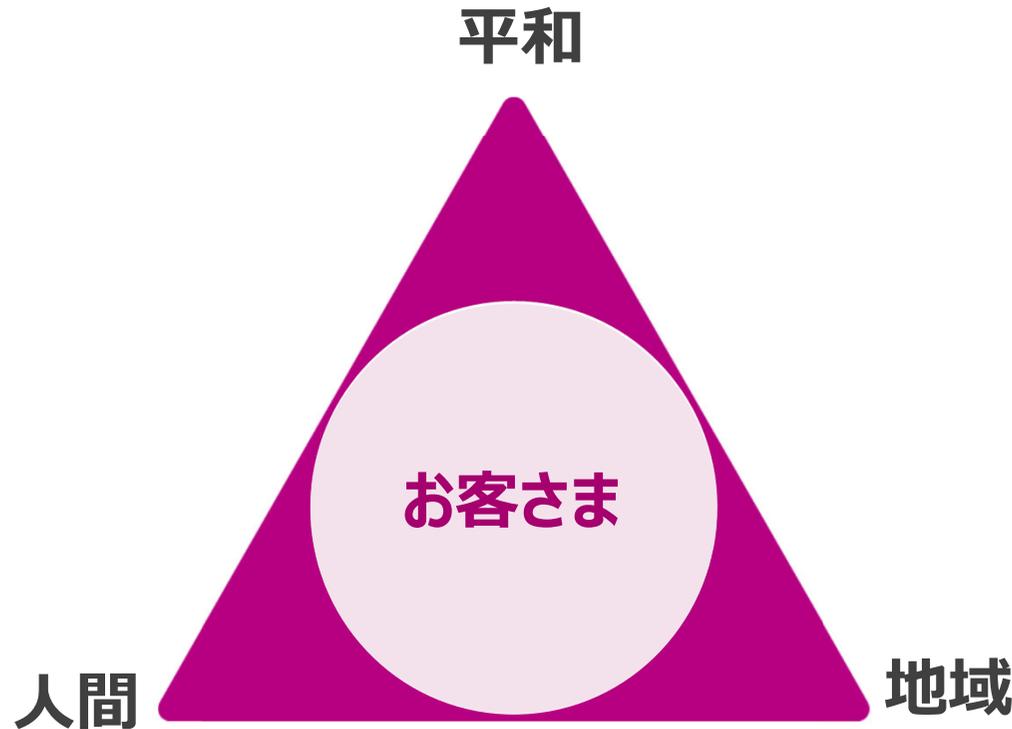
・ベトナムでの新型コロナウイルスワクチン接種支援金贈呈式



(拠出法人)



お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する。



平和：イオンは、事業の繁栄を通じて、平和を追求し続ける企業集団です。

人間：イオンは、人間を尊重し、人間的なつながりを重視する企業集団です。

地域：イオンは、地域の暮らしに根ざし、地域社会に貢献し続ける企業集団です。

イオンは基本理念のもと、絶えず革新し続ける企業集団として、「お客さま第一」を実践してまいります。

The AEON logo is centered on a white background. It features the word "AEON" in a bold, purple, sans-serif typeface. A purple, three-dimensional ring with a slight gradient and a shadow effect is positioned horizontally, passing through the middle of the letters 'E' and 'O'.

AEON

2021年5月末 連結貸借対照表



(億円)

資産の部 (主要項目のみ)	2021/2	2021/5	前期末差	負債・純資産の部 (主要項目のみ)	2021/2	2021/5	前期末差
現預金	12,875	10,913	-1,962	支払手形・買掛金	10,724	9,852	-871
受取手形・売掛金 (割賦売掛金含む)	16,027	16,669	+642	有利子負債 (金融子会社除く)	21,022	21,834	+812
たな卸資産	5,428	5,564	+135	有利子負債 (金融子会社)	10,434	11,242	+807
営業貸付金・銀行業 における貸出金	27,332	28,360	+1,028	銀行業における預金	40,100	40,233	+133
有形固定資産	30,629	31,021	+391	負債合計	97,254	97,111	-143
投資その他資産	9,773	9,846	+72	株主資本	9,239	9,130	-109
				純資産合計 (金融子会社除く)	17,557 (13,936)	17,818 (14,043)	+260 (+107)
資産合計 (金融子会社除く)	114,812 (57,492)	114,929 (57,157)	+116 (-334)	負債・純資産合計 (金融子会社除く)	114,812 (57,492)	114,929 (57,157)	+116 (-334)

ダイエー再編関連企業の2021年度第1四半期実績



(億円)

事業	社名	営業収益			営業利益		
		実績	前期比	前々期比	実績	前期差	前々期差
GMS	イオンリテールストア ※関東、近畿、名古屋の 旧ダイエーGMS	268	-0.8%	-16.3%	-8	+9	+7
SM	ダイエー	745	-5.6%	+2.9%	1	-16	+9

配当予想



	2020年度	2021年度 (期初予想から変更なし)
第2四半期末	普通配当 18円	普通配当 18円
期末	普通配当 18円	普通配当 18円
合計	普通配当 36円	普通配当 36円

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている 見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- この資料の著作権はイオン株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。